

# 大阪大学 図書館報

Vol.38 No.4 (2005 年3月)

## 目次

大阪大学中之島センターに図書館を	1
図書館の将来構想資料「2010年ビジョン」について	4
附属図書館アンケートの実施結果について	7
教員著作寄贈図書	14
お知らせ	15
会議・日誌	15

## 大阪大学中之島センターに図書館を

菊野 亨

### 1. 大阪万博と中之島

2005年3月に愛知万博のオープニングを迎えることになっていますので、35年前の1970年に大阪万博が大阪・千里丘陵で開催されたことを思い出す方も多いことでしょう。シンボルであった太陽の塔は今も万博記念公園に残っています。大阪大学との関わりということでは万博会場の跡地に大阪大学の吹田キャンパスが作られ、中之島から医学部、歯学部、附属病院が移転しました。

その中之島の地に昨年(2004年)4月に大阪大学中之島センターがオープンしました。約10年ぶりに、大阪大学が戻ってきたこととなります。そして、大阪大学中之島センターの中に2005年度中にサテライト的な図書館を整備することが検討されているのです。

ここでは中之島センターの概要とこの1年間の主な活動を紹介します。次に、新しく整備する図書館で考慮すべき3つの基本的課題について整理します。そして、図書館と私個人の関わ

りについて振り返ってみます。

## 2. 大阪大学中之島センターのこと

### - 主な施設

大阪大学中之島センターの建設は大阪大学70周年の記念事業として計画され、多くの方の協力の下に実現いたしました。地上10階、地下2階のビルです。地上10階の中で、7階～10階を大阪大学が、3階～6階をキャンパス・イノベーションセンターが保有しています。1階、2階は共有スペースとして利用しています。

特徴的な施設について述べますと、10階の佐治敬三メモリアルホール(194名収容)では講演会や音楽会が開催できます。9階の交流サロンはロイヤルホテルの直営で本格的なフランス料理が楽しめるのです。ぜひお立ち寄り下さい。更に、9階には3つの会議室もあります。8階のヘルスケアクラブとコンサルタント室については本格的に活動すべく、準備に入っております。7階では3つの講義室が利用でき、その内の1つは模擬法廷になっています。

共有スペースの2階では昼食と懇親会の利用に最適なレストランがロイヤルホテルの直営で営業しています。2005年2月からは(社)大阪大学工業会の事務局が移転して参ります。そして、今回の図書館も2階の1つの部屋を利用して開設します。

### - この1年を振り返って

2004年は日本の国にとって(いや、地球全体にとって)本当に自然災害の多い年でした。大阪大学中之島センターにとってもやはり激動の一年でありました。

4月にオープンしたての頃はセンターを訪れる人はごく限られており、教室などの稼働率も平均10%でした。その中で懐徳堂記念会の講座が定期的で開催されたのです。夏休みを過ぎる頃から、講演会、研究会、同窓会が開催されるようになって、稼働率も平均40%に上がってきました。10月に入ると10階のホールを利用し

た音楽会、国際シンポジウムなどの企画が持ち込まれ、同時通訳のブースを設営した国際シンポジウム、遠隔講義システムを利用した社会人向け高度職業人講座、小学生を対象としたパソコン実習などが行われております。

半年を過ぎた頃から、早くも次年度の事業計画の検討に入りました。10月から既にスタートしているHandai-Asahi中之島塾の開講や大阪大学中之島センターにサテライト的な図書館をおくことが事業計画であがっています。

### - 図書館の基本的課題

大阪大学中之島センターに開設する図書館の現時点で描かれている設計図はおおむね次のようになっています。2階の1つの部屋を利用して、パソコン数台を設置します。当面は大阪大学名誉教授の先生方を対象として、電子ジャーナルやデータベースへのアクセスを豊中、吹田キャンパスと同じ内容でサービスするというものです。

実際にオープンするまでに次の基本課題(1)～(3)について解決の方針を決める必要があります。

- (1) 提供側の体制・・・パスワードによるチェック以外には特に監視員もおかない体制となりますが、主たる利用者が名誉教授の先生方である限りはほぼ何の支障もありません。但し、IT機器の故障対応の手順の検討はサービス向上の観点からも急ぐべきです。将来、利用者を一般人にまで拡大するのであれば、例えば監視カメラの設置なども必要となります。
- (2) 利用者支援・・・パソコンを介しての操作となるために、なるべく簡単なメニュー形式でのアクセスを可能とし、キーボード入力是最小限度にとどめるべきでしょう。技術的なことでは、必要な情報にたどり着くまでの検索の支援、理解しやすい方法での情報の提示、

いわゆるヘルプ機能やマニュアルの整備なども大切です。

- (3) 知的環境への発展・・・当面は電子ジャーナルやデータベースへのアクセスが提供サービスの全てですが、本当に目指したいのは知的活動のできる快適な環境の整備です。そのために知の単なる探索、利用だけでなく、知の創造と発信・受信(コミュニケーション)が提供できる IT 環境作りに着手する必要があります。

### 3. 三つの図書館の思い出

#### - ほろ苦い思い出

それは私が学部3年生の時の出来事です。学部3年生の最後の1ヶ月(2月末から3月末)に社会勉強を兼ねて、工場実習をしたのです。東京への憧れもあって、N社の川崎市の工場を選びました。実習が始まって1週間が経過した頃、具体的課題が私にも示されていました。それはある新技術の分析を行うもので、約2週間という調査期間が指定されました。

最初の間こそ、先輩を尋ね歩いていたのですが、それはとても迷惑な行動だと自覚しました。そこでN社の工場内にある図書室の利用を思いついたのです。入社するとすぐに図書室に入り、ほとんど1日をそこで過ごすようになりました。

やっとペースに乗ってきたある日のことです。東京に久しぶりに大雪が降り、電車が混乱し、やっとの思いで会社にたどりつきました。疲れていたせいもあって、図書室で論文に目を通し始めて間もなく居眠りを始めたようです。肩をたたかれて目を覚ました。「もしも、社員が勤務時間中に居眠りをしてはいけません」と図書室の管理人から厳しい声をかけられたのです。「いえ、私は工場実習中の大学生です」と答えました。するとすぐに「工場実習生であっても会社が経費を払っているのですから、社員と同じことです」と諭されたのです。それ以上に反論をしても、私の言い分に利がないのは明らか

かだったので私は急いで片づけて図書室を後にしました。そして2度とその図書室に行くことはありませんでした。

基本的課題(1)の解決にあたっては決してこのような介入だけはしたくないものです。

#### - パデュー大学訪問

大学を卒業して間もない頃に、国際会議に出席するために渡米した際に友人のウォー博士を訪ねてパデュー大学に出かけました。以前からアメリカの大学の図書館を見てみたいと思っていましたので、早速案内してもらったのです。そこで見たのはマイクロフィルムに画像として取り込まれた文献情報とこれらを管理する文献データベースシステムです。ウォー博士が検索キーを入力すると、文献が検索され、専用のディスプレイで読むことができました。その時は未だ解像度が低かったので、グレーの色の紙に印字してもらった資料をホテルに持ち帰って読んだと記憶しています。

基本的課題(2)については、この分野の技術開発が驚くほど進んでいるので、かなり満足のいく解を提示できると期待しています。しかし、ユーザーインターフェイスや利用の利便性については要求水準も上がる一方なので、今後も継続的な改善の努力は必要でしょう。

このパデュー大学の図書館訪問は私個人にとって別の意味でとても重要なものでした。日本語の学術論文誌について尋ねてみたのです。ウォー博士からの返事は「少なくとも工学の分野では、日本語で書かれている学術雑誌は一冊もおかれていない」というものでした。予想はしていましたが、事実を突きつけられて考え込んでしまいました。日本へ帰国する航空機の中で「今後は研究の舞台を日本でなく海外に移さなくては。そのためにも研究成果は英語でまとめよう」と決心しました。

#### - カリフォルニア大学バークレー校訪問

今から20年ほど前にカリフォルニア大学バ

ークレー校に40日間滞在したことがあります。パークレー校のラマムージ教授から招いて頂いて訪問が実現しました。但し、申し訳なさそうに言われたのは「大学には十分なスペースがないので、個室を用意できない。10人の人たちと仲良く、共有して使って欲しい」ということです。夏休みに入って2人は帰国していたので、5つの机を9人で共同利用する生活が始まりました。

そんなときに、台湾からの留学生ツァイ君が教えてくれたのが「図書館の自習室の利用」でした。

自習室に足を運んでみて本当に驚いてしまいました。広くて立派な(丈夫な)木製の机と座り心地の良い椅子が並んでいて、しかもエアコン

が完備して実に快適な空間がそこにはありました。何より気に入ったのは適度な静けさが保たれていることです。更に、私が座っている周りにはなにやら一心不乱に分厚い本に目を通したり、レポート作成に取り組んでいる人(学生もいるでしょうが、外見上は全ての人が優秀な一人前の研究者に見えてしまいます)がいるのです。これはとても良い刺激になります。そのため土曜日、日曜日を除くほとんどの日をこのヴァーチャル・オフィスで研究に打ち込むことができました。

大阪大学中之島センターの図書館の夢はこのような知的環境の実現であり、利用者の皆様に心から喜んで頂けるサテライト的な図書館を目指したいと考えております。

(きくの・とおる 中之島センター長、大学院情報科学研究科教授)

## 図書館の将来構想資料「2010年ビジョン」について

附属図書館事務検討委員会では、国立大学法人化を控えた平成15年度から、図書館の将来構想を検討し、その結果が「2010年ビジョン」と題する資料にまとめられました。現在の中期計画(6年)が終了する2010年に向けて、図書館のミッションとその実現のための方策を示したものです。今回はその案に沿って、図書館が現在構想している将来像について紹介します。

### 三つのミッション

「2010年ビジョン」では、まず構想の柱として、図書館の果たすべき役割、「ミッション」を定めています。各ミッションと、それにより実現が期待される効果は以下のとおりです。

#### 1. 文献情報と施設の提供

図書の利活用と知識の保存の場としての伝統的な図書館機能を整備し、学内における学習・教育・研究活動を支援する。

学生に豊富な学習用資料と快適な勉強の場を提供

研究者に集中化・共有化された研究資源を確保

情報スキルを備えた人材の育成

大学の学習・教育・研究の基盤整備

#### 2. 電子情報の提供

電子情報による学術情報サービスの拠点としての電子図書館機能を整備し、学内外における研究活動を支援する。

時間・場所に制約されずに最新の学術情報が入手可能に

ネットワークを通じてより広く、より多くの利用者に図書館のサービスが拡大

検索効率の向上により、大学の財産としての図書館資料のより有効な活用

### 3. 学術情報を通じた社会貢献

学内で生産・所蔵する学術情報の発信拠点としての図書館を整備し、大阪大学の社会貢献を支援する。

大阪大学の学術情報の窓口として社会から求められる情報を提供

図書館の保有する学術情報を社会に還元

地域の学術情報の拠点として生涯学習を支援

具体的な内容としては、各種の電子ジャーナル・データベースなど大学外で作成された電子コンテンツを契約により提供する「電子情報の提供」、学内で所蔵あるいは生産する学術情報を電子化して学内外に提供する「資料の電子化と発信」（オンライン蔵書目録の整備も広い意味ではこの中に含まれます）、そしてこれらの電子情報を統合し、利用者のニーズに合わせた形で提供する窓口機能である「図書館ポータル」の整備などです。

各ミッションについて簡単に説明します。

#### 1. 文献情報と施設の提供

図書館が伝統的に行ってきた事業で、図書館施設を使って、主に紙媒体の図書館資料を閲覧・貸出・複写等の手段で提供すること、すなわち「場所」と「もの」のサービスです。

具体的には、教育研究に必要な資料の購入や図書館への集中配置など「資料の整備」、図書館の増築・改修により図書保存機能の強化などを図る「施設の整備」、開館時間の延長・バリアフリー・セキュリティへの対応など「利用環境の整備」、貸出・相互利用・複写など窓口サービスや利用者教育の改善を図る「利用者サービスの充実」がその内容となります。

#### 2. 電子情報の提供

情報技術の発展に伴い、この10年ほどの間に急速に重要性を増してきた図書館の役割で、現在もっとも注目されている「電子図書館」の機能がこれにあたります。1の伝統的図書館機能が、図書館という「場所」、資料という有限の「もの」、開館時間という「時間」など、物理的な制約のもとでのサービスであったのに対し、電子情報は基本的に「どこでも」、「いつでも」利用できるという特徴を持っています。（ただし、有料で購入している多くの電子情報は、キャンパス内での利用に限られるといった契約上の制限はあります。）

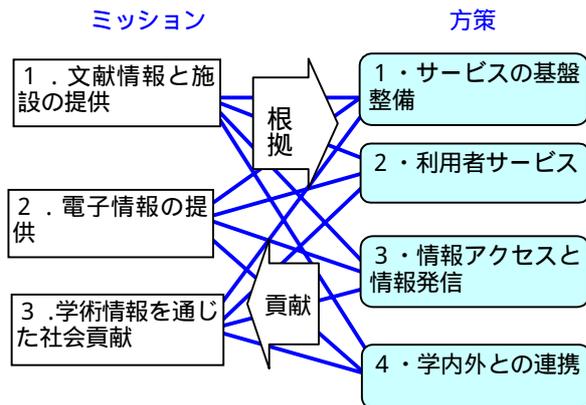
#### 1. 学術情報を通じた社会貢献

機能としては上の二つと重なるところがありますが、ミッションという形をとることにより、大学の社会貢献、地域との連携に、図書館独自の機能を生かして参画するという姿勢を明確化したものです。

具体的には、学内出版物や各種広報を収集し、館内に大阪大学コーナーを設置して利用に供するなど「大学情報の収集と提供」、学内学術情報を電子化し、学術ポータルを通じて積極的に公開する「学内学術情報の公開」、地域住民への図書館の公開や図書館・教育機関との協力を推進する「図書館の公開と地域協力」、ビジネス図書館的機能の提供、学内産学連携機関との協力などを図る「産業界との協力・連携」などが挙げられます。

#### 実現のための方策

「2010年ビジョン」では、三つのミッションを実現するための方策を、「1・サービスの基盤整備」、「2・利用者サービス」、「3・情報アクセスと情報発信」、「4・学内外との連携」の四つに区分し、それぞれの具体的内容を挙げています。この4つの方策は、先に挙げた三つの「ミッション」と個別に対応しているわけではなく、下の図のように、すべてのミッションとすべての方策が相互に関連する形になっています。



以下にそれぞれの方策の内容を簡単に説明します。

#### 1. サービスの基盤整備

資料の収集と配置、資料管理、利用環境・施設・設備の整備などにより、ミッションの実現を目指します。学生用図書増加、目録データ遡及入力推進、書庫内図書の点検、不要資料の処理、図書収容力の拡大といった活動がこれにあたり、将来的には図書館の増築・改修計画も構想に含まれます。

#### 2. 利用者サービス

資料提供や資料・複写物の配送(デリバリー)の改善、レファレンス・サービス、利用者へのガイダンス・広報、サービス利用環境の充実など、直接利用者の要求に応じてサービスを提供する部分を改善していくことにより、ミッションの実現を目指します。図書貸出返却の改善、

ネットワークを利用したサービス受付やデリバリーの改善などの構想がこれに含まれます。

#### 3. 情報アクセスと情報発信

電子ジャーナル、データベースなど電子コンテンツの整備、関連情報の収集提供という電子図書館機能にかかわる機能と、大学情報の収集、電子化、情報公開という社会貢献にかかわる機能に大別されます。どちらにしても電子形態の情報がミッションを実現する上で大きな役割を果たすことになります。

#### 4. 学内外との連携

学内の各組織(理事会、事務局、各部局、部局図書室・資料室)、学外の各機関(国内大学・研究教育機関、海外の図書館、地域の公共図書館・教育機関、国立国会図書館、各種団体、産業界)との連携により、サービス・組織・技術・資金等の面での相互協力と支援の確保を図り、ミッションの実現を目指します。

「2010年ビジョン」は以上に述べたような構想を図の形で表現した資料として準備中です。図書館の将来に向けた構想を紹介する資料として、さらに表現形式などに検討を加えた上で公開される見込みです。

(文責：山崎 隆史 やまさき・たかし 附属図書館情報管理課 専門員)

## 附属図書館アンケートの実施結果について

杉山宗武

### 1. はじめに

附属図書館では、利用者（主に学生）の利用動向を把握し、サービス改善に資することを目的として平成16年11月1日（月）から11月30日（火）までの1か月間アンケートを実施しました。その結果概要を報告します。

### 2. 実施場所

大きく分けて、次の4個所でアンケートを実施しました。

- 1) 共通教育語学授業の一部教室（以下「共通教育」）
  - 2) 附属図書館本館（以下「本館」）
  - 3) 附属図書館生命科学分館（以下「生命分館」）
  - 4) 附属図書館吹田分館（以下「吹田分館」）
- \* 以下、本館、生命分館、吹田分館の3館を合わせて「図書館」といいます。

### 3. 実施方法及び回収方法

共通教育では、全学部の学生が含まれるように選定した語学授業の一部において担当の教員に依頼して授業中に受講学生に対してアンケートを実施してもらい、後日図書館に回収する方法をとりました。共通教育の性質上、対象学生は1年生が大部分となりました。

図書館では、カウンター等に置いたアンケート用紙に来館者が直接記入する方法と、入館者やホール利用者に係員が配布して記入願う方法の2通りを併用しました。いずれの方式も回収は、館内に設置した回収箱を利用しました。

### 4. 配布及び回収枚数

配布枚数と回収枚数は下表のとおりです。授

業で実施した関係上共通教育の回収率が非常に高くなっています。

	配布枚数 (枚)	回収枚数 (枚)	回収率(%)
共通教育	1051	760	72.3
本館	1086	483	44.5
生命分館	518	235	45.4
吹田分館	428	275	64.3
合計	3083	1753	56.9

### 5. アンケート内容

アンケート内容は、館内での検討を経て確定されました。以下の集計結果概要では、質問文と選択肢は簡略な記述としています。また、件数および合計数は有効回答数を表しています。

### 6. 集計結果概要

#### 1) 設問01「身分」

学部学生が1,233件73%、大学院生（修士、博士）が279件17%、教員が50件3%、職員が47件3%、それ以外の方々（学外者含む）が75件4%となっています。

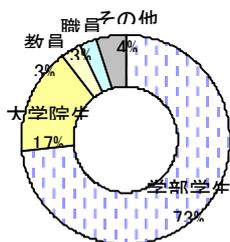
その他の具体的記述中には、民間企業の研究者や会社員などがありました。

#### 2) 設問02「所属」

回答数の上位5部局は、基礎工学部228件13%、工学部215件12%、法学部199件11%、医学部188件11%、理学部170件10%でした。

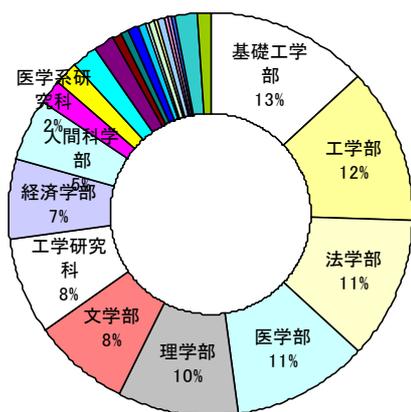
所属の具体的記述では、専門学校や会社名を書いたものがありました。

01 身分



01 身分	件数
学部学生	1233
大学院生	279
教員	50
職員	47
その他	75
計	1684

02 所属

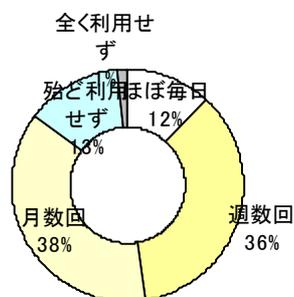


02所属	件数	02所属	件数
基礎工学部	228	理学研究科	12
工学部	215	情報科学研究科	11
法学部	199	国際公共政策研究科	9
医学部	188	基礎工学研究科	8
理学部	170	言語文化研究科	7
文学部	138	生命機能研究科	7
工学研究科	133	高等司法研究科	7
経済学部	114	法学研究科	5
人間科学部	84	歯学研究科	5
医学系研究科	37	経済学研究科	4
薬学部	33	薬学研究科	2
文学研究科	33	学外	30
歯学部	31	その他	19
人間科学研究科	12	計	1741

## 3) 設問03「利用頻度」

週数回の利用者が623件36%、月数回が662件38%でほぼ拮抗しており、ほぼ毎日の利用者は204件12%、ほとんど利用していない者は234件13%でした。全く利用していない者も23件1%回答がありました。今回のアンケートのひとつの特徴は、共通教育で実施したことにより、図書館をほとんど利用しない、あるいは全く利用しない学生からの回答が250件以上寄せられたことでした。来館者アンケートだけでは得られない意見が得られたと思われます。

03図書館利用頻度

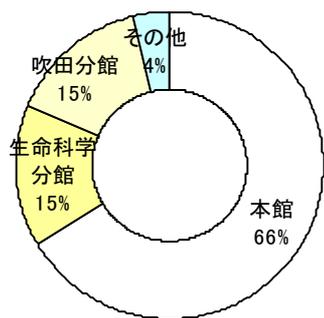


03図書館利用頻度	件数
ほぼ毎日	204
週数回	623
月数回	662
殆ど利用せず	234
全く利用せず	23
計	1,746

## 4) 設問04「利用図書館・室」(複数回答可)

普段利用する図書館・室では本館が6割以上を占めました。共通教育は、本館のある豊中キャンパスで主に実施されますのでアンケートの実施場所での回収枚数が反映された数字といえます。その他には、学内の部局図書室等が記述されています。

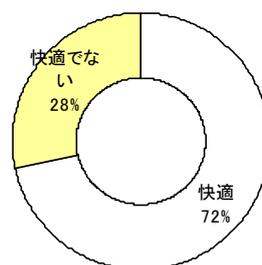
04 利用図書館室



04利用図書館室	件数
本館	1,260
生命科学分館	287
吹田分館	280
その他	73
計	1,900

一方大学院生の回答を取り出して見ますと、充分備えているという回答とある程度充足を合わせると65%、全く不足という回答と少し不足という回答を合わせると35%となります。これは学年が上がるにつれ、資料に対する要望が大きくなり、現在の資料では十分な学習・研究が行えないという割合が大きくなっていることを示しています。

05 利用環境



5) 設問05「利用環境」

快適であるとの回答は1,206件72%、快適でないは480件28%でした。

快適でないとの回答のうち記述回答には400件以上の図書館における利用環境改善のための様々な意見が提起されています。代表的なものをいくつかあげてみます。

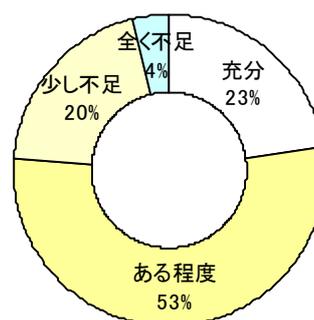
- 温度管理がよくない(暑い、冷房が効いていない、冷房開始時期・時間が遅い、空調がよくない等々) 261件
- 設備が古い、不足(照明が暗い、机・椅子が不足、トイレが汚い等) 68件
- 資料が古い、新しい本が少ない 25件
- コピーが不便、時間が限られている、本が探しにくい等サービス面への意見 25件
- 利用者のマナーが悪い(寝ている、おしゃべりしてうるさい等) 24件

05利用環境	件数
快適	1,206
快適でない	480
計	1,686

6) 設問06「資料充足度」

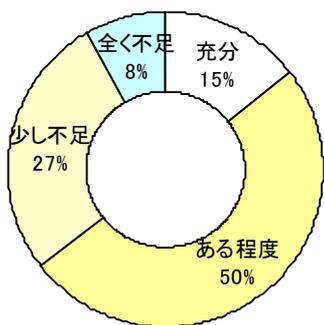
全体では、資料を充分備えているという回答とある程度備えているという回答を合わせると1,286件76%、全く不足という回答と少し不足という回答を合わせると24%です。

06 資料充足度



06資料充足度	件数
充分	382
ある程度	904
少し不足	336
全く不足	66
計	1,688

06-1資料充足度(大学院生)

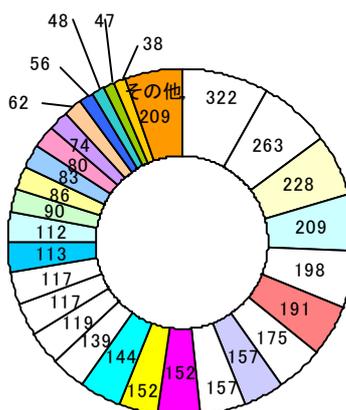


06-1大学院生	件数
充分	40
ある程度	137
少し不足	75
全く不足	23

7) 設問07「充実必要分野」(複数回答可)

図書館資料で充実が必要と思われる分野についての質問でしたが、概ね自分の所属する部局に関連する分野の要望が多いという結果が出ました。3,938件の充実必要分野への要望の中で、上位5分野は、「情報科学(含むコンピュータ)」、「文学」、「物理」、「医学」、「化学」でした。

07充実必要分野

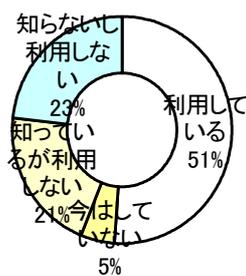


07充実必要分野	件数	07充実必要分野	件数
情報科学	322	芸術	117
文学	263	哲学	113
物理	228	宇宙・地球科学	112
医学	209	政治	90
化学	198	薬学	86
工学	191	保健	83
数学	175	教育	80
心理学	157	百科事典等	74
生物学	157	その他自然科学	62
法律	152	その他人文科学	56
言語	152	その他社会科学	48
歴史	144	歯学	47
経済	139	地理	38
スポーツ	119	その他	209
社会学	117	計	3,938

08自動図書貸出返却装置利用

8) 設問08「自動図書貸出返却装置利用」

利用しているとの回答が867件51%でした。知っているが利用していないが349件21%、利用していたが今はしていない、は85件5%ありました。合わせると26%以上の方が同装置の存在を知らながら利用していないことになります。設問10の装置利用感想に寄せられた意見等を参考にして、利用方法の周知や不便さの解消に向けた処置を実施する必要があると考えます。



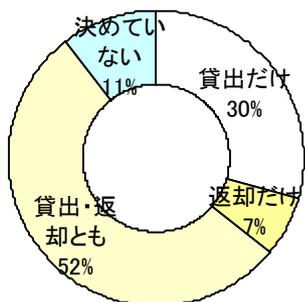
08装置利用	件数
利用している	867
今はしていない	85
知っているが利用しない	349
知らないし利用しない	395
計	1,696

9「自動図書貸出返却装置利用方法」

装置の利用方法では、貸出・返却とも利用するとの回答が508件52%、貸出だけが28

2件30%、返却だけが63件7%、決めていないが101件11%でした。半数以上が貸出返却の両方で利用しており、同装置の有用性が伺えます。一方、貸出だけ、あるいは返却だけを合わせると37%となりこの数字に同装置の課題があるように思われます。

09自動図書貸出返却装置利用方法

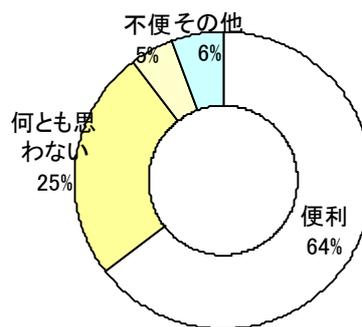


09装置利用方法	件数
貸出だけ	282
返却だけ	63
貸出・返却とも	508
決めていない	101
計	954

10) 設問10「自動図書貸出返却装置利用感想」

装置の利用感想では、便利との回答が616件64%、何とも思わないが241件25%、不便が45件5%、その他が54件6%でした。不便と感じる理由や、その他の記述の中で多かったのが「返却日がわかりづらい(レシートをなくすので等)」、「処理できない本がある(バーコードが貼ってない等)」、「装置の読取が悪い(バーコードの位置が悪い、反応しない等)」、「操作がむずかしい(使い方がわからない等)」でした。バーコードが貼っていない図書については鋭意努力しておりますのでご辛抱ください。

10自動図書貸出返却装置利用感想

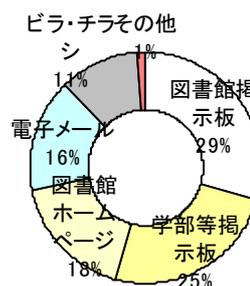


10装置利用感想	件数
便利	616
何とも思わない	241
不便	45
その他	54
計	956

11) 設問11「図書館からのお知らせ方法」(複数回答可)

お知らせ方法の要望では図書館掲示板が782件29%で最多でした。次に多かったのが学部等掲示板の654件25%でしたがこの方法は現在使っていないので今後の連絡には利用したほうがよいと思われれます。

11図書館からのお知らせ方法

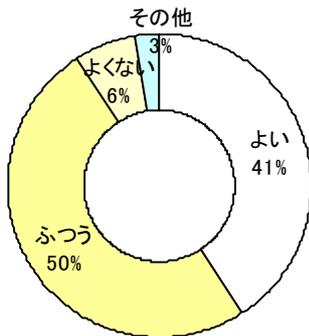


11図書館からのお知らせ方法	件数
図書館掲示板	782
学部等掲示板	654
図書館ホームページ	476
電子メール	423
ビラ・チラシ	293
その他	29
計	2,657

12) 設問12「職員の対応」

職員の対応では、よいとの回答が687件41%、ふつうが842件50%で両者合わせて91%を占めました。しかしながら、よくないとの回答が109件6%あり、利用者には悪い印象を与えている対応も見られるようなので改善の必要な点があると思われます。

12職員の対応

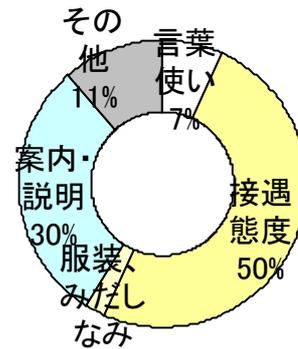


12職員の対応	件数
よい	687
ふつう	842
よくない	109
その他	43
計	1,681

13) 設問13「職員対応改善案」

接客態度を改善するべきとの回答が496件50%と半数を占め、利用者が職員の丁寧な対応を望んでいることがうかがえます。次に多かったのが、図書館の資料、設備等の案内・説明を十分にできるようにするの296件30%でした。利用者に対して図書館の資料や設備を十分に案内・説明することの必要性を再認識させられました。接客態度の改善とともに館内における日常的な研修の必要性が求められていると考えます。

13職員対応改善案



13 職員対応改善案	件数
言葉使い	69
接客態度	496
服装、みだしなみ	23
案内・説明	296
その他	113
計	997

14) 設問14「充実・改善希望」

図書館に対する充実・改善希望は、第三希望まで記述できる形をとりました。その結果、第一希望は996件、第二希望は498件、第三希望は232件の希望が寄せられました。

全体で希望が多かったのは「施設・設備」に関する498件、「資料」に関する473件、「利用サービス」に関する309件でした。次に多かったのは「温度管理（冷暖房、空調、換気等）」に関する175件ですが、設問05「利用環境」にも261件意見が寄せられていたので大きな声であると考えられます。

15) 設問15「自由記述」

全体で293件の意見が寄せられた自由記述の中で多かった意見は、「資料」に関する64件、「利用サービス」に関する57件、「施設・設備」に関する46件、「利用時間」と「職員」に関するものが同数の19件でした。

## 7. まとめ

今回のアンケートの回答者は全体として見ると学部の1年生が主体という結果になりました。図書館の利用環境や資料充足度はこれらの利用者にとっては概ね満足のいくものという評価が得られたかと思われます。しかし、学部高学年や大学院生、教員等からはより多くの資料充実の希望が出されています。また、図書館資料の充実必要分野は、当然ながら利用者の所属部局に関連するものが多く要望されていますが、分野の要望のほかにも、資料自体が古いという意見が多数あったことを改善の手がかりとしたいと思います。

このアンケート全体を通じて一番多かったのが温度管理に関する意見であったということは、法人化初年度の図書館の経営努力に対して利用者からの痛烈な批判を浴びた形となりました。

利用者の皆様の快適度を向上させるというサービスの基本を改めて痛感し、今後の経営のあり方に反映させていきたいと思えます。

このアンケートの結果や意見に基づき、図書館として改善可能なところは少しずつ実行を始めています。ほんの一例ですが、本館のトイレが汚いとの意見を取り上げ、来年度から利用の多い新館を1日2回掃除することにしました。このように出来ることからすぐに手をつけていくとともに、多くの経費の必要な事柄についても、経営の合理化・効率化を通じて努力してまいります。今後とも一層図書館をご利用いただき、学習や研究に打ち込んでいただきたいと思います。ご協力ありがとうございました。

(すぎやま・むねすけ 附属図書館情報サービス課長)



附属図書館本館全景（北西側）

## 教員著作寄贈図書

(2004.12 ~ 2005.2)

本館	
青竹 正一 (高司、教授)	特別講義商法総則・商行為法総則 / 青竹正一著 東京：成文堂，2005
生命科学分館	
谷口 直之 (医、教授)	大阪大学医学部生化学教室創設百周年記念誌 大阪：大阪大学大学院医学系研究科 生体制御医学生化学・分子生物学講座(生化学), 2005
岩間 吉也 (名誉教授)	心臓の動きと血液の流れ / ウィリアム・ハーヴィ[著]；岩間吉也訳(講談社学術文庫；1697) 東京：講談社，2005
吹田分館	
奈賀 正明 (接合研、教授)	New frontiers of process science and engineering in advanced materials : PSEA'04 : proceedings of the international conference on new frontiers of process science and engineering in advanced materials, Kyoto, Japan, November 24-26, 2004 : the 14th Iketani conference / edited by Masaaki Naka, Toshimi Yamane ; supported by Iketani Science and Technology Foundation, The Murata Science Foundation Ibaraki, Osaka : Joining and Welding Research Institute of Osaka University, 2004
舟橋 國男 (名誉教授)	建築計画読本 / 舟橋國男編著 吹田：大阪大学出版会, 2004
原島 俊 (工、教授)	バイオテクノロジーのための基礎分子生物学 / 大嶋泰治 [ほか] 編著 京都：化学同人, 2004
馬場 研介 (工、助教授)	平成 16 年(2004 年)新潟県中越地震災害調査速報 / 大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻 [大阪]：大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻, 2004
芝 哲夫 (名誉教授)	日本の有機化学の開拓者眞島利行 / 久保田尚志著 [吹田]：久保田一郎, 2005 (産研にも寄贈)
人間科学研究科図書室	
西端 律子 (人、助手)	情報教育の学習評価：観点と規準 / 岡本敏雄, 西野和典編著 (情報教育シリーズ) 東京：丸善, 2004

(敬称略：受付順)

前号の「教員著作寄贈図書」で、寄贈を受けた図書館名に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

図書館名(青い部分) 2 段目 生命科学分館 × 人間科学研究科図書室

## お知らせ

### 学術情報リテラシー教育担当者研修開催

平成17年1月19日(水)から21日(金)の3日間、大阪大学附属図書館と国立情報学研究所との共催で、本館図書館ホールを会場として平成16年度学術情報リテラシー教育担当者研修が開催されました。参加者は西地区を中心とした大学図書館等の機関から52名、うち大阪大学からは1

名が参加しました。

次の題で多くの先進的な実践例が紹介されました。

第1日：理論を学び、実例を知る

第2日：知識を得る

第3日：実践へ向けて考える

---

### Webを利用した学外文献複写・図書借用申込みサービスについて

1月27日(木)より、生命科学分館・薬学研究所図書室・微生物病研究所図書室・蛋白質研究所図書室において、教職員・学生の方が学内のパソコンからWebを利用して、学外文献複写・図書借用申込ができるサービスの試行を始めました。

また、吹田分館においては、平成13年度から教職員を対象に実施してきました上記サービスを学生の皆さんにも拡大することになりましたので、どうぞご利用ください。詳しくは、各館のホームページをご覧ください。

## 会議

- 評価委員会 12.2(木)13:30~14:30  
1.平成16年度第2四半期の実績について、評価項目に沿って検討し、採点を行った。
- 研究開発室会議 12.27(月)16:00~16:40  
1.研究開発室の平成17年度の体制について協議した。
- 電子図書館専門委員会 1.6(木)13:00~14:30  
1.平成17年度電子ジャーナル必要経費の確保について協議した。  
2.平成17年度データベースサービス内容及び課金額案について協議した。  
3.電子ジャーナルの新規タイトルの導入及び既存電子ジャーナルの見直しについて検討した。  
4.Web of Science SSCI A&HCI の導入について協議した。
- 図書館委員会 1.25(火)10:00~11:25  
1.平成18年度概算要求について協議した。  
2.平成17年度重点経費、間接経費、総長裁量経費の要求事項について協議した。  
3.平成17年4月から卒業生等へのサービス拡大を図るため、図書館利用規程の一部改正が承認された。

4. 平成17年度電子ジャーナル経費の分担方式が承認された。
5. 平成17年度データベース検索システムの利用料金が承認された。
6. 平成17年度研究開発室の研究課題及び室員候補者が承認された。
7. 生命科学分館並びに吹田分館の図書の不用品決定について、不用品リスト(案)のとおり承認された。

吹田地区運営委員会

2.7(月)13:30~14:30

1. 次期吹田分館長の選考が行われ、平尾俊一工学研究科教授が再選された。
2. 大阪大学理工学系図書館機能ネットワークの構築を基本構想とする吹田分館改修計画について協議が行われた。

## 日 誌

H.16.12.2	評価委員会	(生命科学分館)
12.27	研究開発室会議	(吹田分館)
17.1.6	電子図書館専門委員会	(本館)
1.19~21	学術情報リテラシー教育担当者研修	(本館)
1.25	図書館委員会	(本館)
1.26	外国雑誌センター館幹事会	(東京工業大学)
1.27	国立大学図書館協会経営問題委員会・経営問題小委員会・社会連携小委員会合同会議	(九州大学)
2.3	国立大学図書館協会学術情報委員会	(筑波大学)
17.2.7	吹田地区運営委員会	(吹田分館)

大阪大学図書館報 Vol.38No.4 通巻 153号 2005年3月30日発行  
 発行所 大阪大学附属図書館 豊中市待兼山町1の4 06(6850)5070  
 e-mail : sanko-honkan@library.osaka-u.ac.jp